多文化共生事業事例集

年度 R6

団体名	豊田市	助成金名：多文化共生のまちづくり促進事業
		事業総額　1,500千円
事業名	多文化共生に関する活動の担い手育成事業	
概要	外国人市民の増加や散在化が見込まれる中で、特に子どもについては、将来において自立した生活を送るために日本語学習支援等の拡充が必要である。また、これまでの集住地区における支援に留まらず市内全域へ支援を展開する必要がある。そのため、活動の担い手の掘り起しから育成につなげるため、既存活動の紹介冊子・WEBサイト等への掲載記事作成、冊子等作成のための検討会議の開催、研修会の開催を主に行った。	

事業の背景

今後も外国人市民の増加及び散在化が見込まれる中、現在実施されている日本語教室や放課後学習、社会参画を促す活動などの多文化共生にかかる支援拡充の必要性が高まるとともに、市内の外国人集住地区のみならず、より広範な市域まで支援を展開する必要がある。また、持続可能な支援体制の構築に向け、多様な担い手の関わりしろを増やしていく必要がある。

事業の目的

市内で活動する多文化共生に係る団体等を「多文化共生つながるハンドブック」にリストアップし、活動分野の整理と見せる化を図る。ハンドブックを活用した多文化共生及び担い手多様化の啓発を実施するとともに、訴求先とした学生等若い世代と現場での活動をマッチングすることで、多文化共生分野における活動の活性化を図るとともに、担い手の多様化とその不足の解消を目指す。

事業の詳細

①多文化共生つながるワーキング部会（第1回）

令和6年6月28日（金）午前10時30分～12時00分

多文化共生分野で活躍する市内の団体の情報整理及び訴求先、担い手発掘に向けた検討

【部会委員構成】豊田市国際まちづくり推進課長（部会長）、NPO法人ボランタリーネイバーズ副理事長、一般社団法人JUNTOS代表理事、愛知淑徳大学コミュニティ・コラボレーションセンター室長、公益財団法人豊田市国際交流協会主任、とよた市民活動センター主査の計6人

②多文化共生つながるワーキング部会（第2回）

令和6年8月22日（木）午後2時30分～4時00分

市内の多文化共生分野で活躍する団体等を紹介するハンドブックに掲載する団体等の決定及び掲載内容（以下3における取材・原稿作成項目）、主なターゲットとした学生に対する訴求ポイント等の検討。（愛知淑徳大学コミュニティ・コラボレーションセンター室長、とよた市民活動センター主査は欠席）

③多文化共生つながるハンドブック作成にかかる取材、原稿作成　9月～10月

一般社団法人JUNTOSに委託し、ハンドブック掲載団体への取材を行い、大学生等の若年層を訴求先としてイメージした原稿の作成

④多文化共生つながるハンドブックデザイン作成　11月～12月

Tsuchidesignに委託し、学生等の若年層の目を引き、かつ親しみやすいデザインの作成

⑤多文化共生つながるワーキング部会（第3回）

令和6年11月13日（水）午前10時30分～12時00分

多文化共生つながるハンドブック初稿について、

原稿の文体及びデザインの観点から確認

⑥愛知淑徳大学CCC「コラボメッセ」への出展

令和6年12月15日（日）午後12時30分～4時30分

愛知淑徳大学星が丘キャンパスにて開催のCCC（コミュニティ・コラボレーションセンター）主催の「コラボメッセ」にボランティアマッチングアプリへの情報掲載で連携する株式会社musbunと共同でブース出展、学生向けに多文化共生つながるハンドブック掲載団体等の紹介

⑦愛知工業大学「国際ビジネス論」講義への登壇　令和6年12月18日（水）午前9時～10時30分

愛知工業大学八草キャンパスにて、加藤里美教授（同大学経営学部）の講義「国際ビジネス論」に多文化共生つながるハンドブック掲載団体等の中から2名に依頼し登壇いただいた。講義では、多文化共生の活動を始めたきっかけや思い等を学生向けに講演いただいた。

⑧ボランティアマッチングアプリへの情報掲載　12月～1月

株式会社musbunのボランティアマッチングアプリ「musbun」に団体情報及びボランティア募集情報を掲載

⑨多文化共生つながるハンドブック印刷製本　1月～2月

関係機関、近隣学校等への配布のため、1,000部印刷

⑩多文化共生つながるワーキング部会（第4回）　令和7年2月13日（木）午後3時30分～5時00分

多文化共生つながるハンドブックの完成品の披露。次年度以降の更なる担い手多様化促進に向けた意見交換を実施

⑪多文化共生つながるハンドブックのプレスリリース・配布　3月

事業実施における工夫点・事業の成果等

・愛知淑徳大学CCC「コラボメッセ」出展ブースへの来場者数約150名・愛知工業大学「国際ビジネス論」聴講学生数25名

・多文化共生ハンドブック印刷部数1,000部

【主な配布先】

・近隣大学(愛工大、中京大、日赤豊田看護大、県芸大、学泉大)計140部・市内高校、高専計80部・市国際交流協会10部・市施設等200部・市内イベント200部・ハンドブック掲載団体(12団体)計60部

多文化共生つながるワーキング部会の委員として、NPO法人ボランタリーネイバーズ、一般社団法人JUNTOS、愛知淑徳大学コミュニティ・コラボレーションセンター、公益財団法人豊田市国際交流協会、とよた市民活動センターにご協力いただき、全4回の部会を開催した。

また、愛知工業大学経営学部の加藤里美教授にご協力いただき、同教授の授業「国際ビジネス論」にて、豊田市の多文化共生に関する取組説明を実施するとともに、多文化共生つながるハンドブックに掲載した一般社団法人JUNTOSの代表理事及び喫茶Nossa！の主宰にも登壇を依頼し、活動を始めた経緯や多文化共生に対する思いについて、学生向けに講演いただいた。

今後の課題・将来に向けての展望等

ハンドブックの作成過程を通じて築いた、多文化共生に取り組む市内の活動団体等とのつながりを大切にしながら、ハンドブックを活用し新たな担い手確保に向け啓発を行っていくとともに、今後は若年層のみならず、幅広い世代（シニア層を想定）へと訴求先を広げていくことで、担い手の多様化や団体等の活動の更なる活性化に一層取り組んでいく。

事業担当者のふりかえり

『多文化共生つながるハンドブック』は、市内で多文化共生に取り組まれている方々の熱い想いと魅力、温かさが詰まった一冊です。構想から原稿執筆、デザインまで、多くの方々の理解と協力があったからこそ、完成させることができました。特にハンドブックの取材と原稿作成を依頼した一般社団法人JUNTOSは、日々、地域で多文化共生に取り組む団体の一つであり、その活動の楽しさと難しさを体感しているからこそ引き出すことができた声が、多数あったのではないかと思います。今後、外国につながる住民の増加が予想される中、地域社会で多文化共生に取り組む人材のさらなる多様化を目指し、ハンドブック掲載団体等との連携機会を充実させていくとともに、ハンドブックを活用した新たな担い手の掘り起こしとつながり創出につなげていきたいです。